

2019年6月18日
エクイニクス・ジャパン株式会社

エクイニクスのハイブリッドクラウド環境を活用し、
住信 SBI ネット銀行が高セキュリティのデジタルインフラ環境をスピーディーに実現
～金融機関に必須なセキュリティ要件を満たしたクラウドインフラの構築～

インターコネクション（相互接続）およびデータセンターサービスをグローバルに展開するエクイニクス（Nasdaq：EQIX、日本法人代表取締役 兼 北アジア統轄：古田 敬、以下 エクイニクス）は本日、インターネット専門銀行の住信 SBI ネット銀行株式会社（以下 住信 SBI ネット銀行）がデジタルインフラ構築の基盤としてエクイニクスを採用したことを発表しました。

住信 SBI ネット銀行は、自社のデジタルトランスフォーメーション推進のため、2020年3月を目標に社内システムのオンプレミスシステムからクラウドサービスへの移行を進めています。主に商用系とオフィス・オートメーション系（以下 OA 系）の2つのシステム群があり、これらのスピーディーかつシームレスなクラウド移行と、全てのデータ通信の暗号化など高いネットワークセキュリティ要件が課題でした。

今回、エクイニクスの IBX® (International Business Exchange™) データセンター（以下 IBX データセンター）とインターコネクションサービスを利用することで、住信 SBI ネット銀行はセキュアなクラウド接続を短期間で実現すると同時に、上記の課題を解決しました。住信 SBI ネット銀行の商用系システムにおいては、エクイニクスの IBX データセンター内で Equinix Cross Connect（以下 Cross Connect）を利用し、短期間でクラウドサービスへの接続を完了しました。また OA 系は Equinix Cloud Exchange Fabric™（以下 ECX Fabric）*を活用し、ユーザーポータルサイトからの簡易な操作でクラウドサービスへのオンデマンド接続を実現しました。

*ECX Fabric は SDN（ソフトウェア・デファインド・ネットワーク）ベースの接続サービスであり、エクイニクス・プラットフォーム上の自社システム間の動的なインターコネクションを可能にします。また、ECX Fabric に接続しているあらゆるクラウドサービスプロバイダーへのセキュアなダイレクト接続を簡易かつ迅速に実現します。

発表の主なポイント：

- 住信 SBI ネット銀行は、2007年に営業を開始した、三井住友信託銀行と SBI ホールディングスを出資会社とするインターネット専門の銀行です。お客様へのサービス向上のため、ハイブリッドマルチクラウドアーキテクチャーの導入や AI（人工知能）といった最先端技術を活用したサービス提供に注力しています。
- 住信 SBI ネット銀行が得たベネフィット
 - システムの地理的分散と事業継続性の強化：住信 SBI ネット銀行は、東京、大阪 2 拠点の IBX データセンターを利用することで、災害復旧機能および事業継続性を強化しました。稼働率 99.9999% の高い可用性と信頼性を備えた IBX データセンター

にシステムを分散配置することにより、どちらかの地域で未曾有の自然災害が発生した場合でも、他方のシステムへ自動的に切り替えることができます。

- **複数のパブリッククラウドへダイレクト接続**：住信 SBI ネット銀行は、商用系システムは Amazon Web Services（以下 AWS）、また OA 系は Microsoft Azure ならびに Office365 への接続を必要としていました。今回、AWS へは IBX データセンター内で Cross Connect を利用してダイレクト接続し、また Microsoft Azure ならびに Office365 へは、ECX Fabric を利用してオンデマンドのダイレクト接続を実現しました。これにより、パブリックインターネットや WAN を経由しないセキュアなクラウド接続が実現しました。
 - **シンプル、フレキシブル、スピーディーなクラウド接続の実現**：パブリッククラウドとの直接接続の確立は、サービス事業者によっては数週間かかるケースがあります。今回 Cross Connect を利用した AWS への接続は数日間で完了しました。また、Microsoft Azure ならびに Office365 へは、ECX Fabric のユーザーポータルサイトよりワンクリック操作で接続することができました。万が一、接続帯域が不足する場合には、オンデマンドで動的に帯域を増やすことが可能です。
 - **総合的なセキュリティの実現**：住信 SBI ネット銀行は、エクイニクスのデータセンターサービスとインターコネクションを活用することで、全てのデータ通信の暗号化というネットワークセキュリティ要件の実現に加え、機器を収容するデータセンターの物理的セキュリティや、クラウドへのダイレクト接続によるインターネットセキュリティの確保も実現しました。
 - **自社のビジネスエコシステムの拡大**：住信 SBI ネット銀行では、インターネット銀行の強みを生かして、システム API を積極的に開放し、外部のサービス会社と連携したサービス企画・提供を積極的に進めています。エクイニクスのインターコネクションサービスとエコシステムを活用することで、自社のビジネスエコシステムの形成と拡大を、円滑かつ迅速に進めることができます。
- エクイニクスでは、住信 SBI ネット銀行と外部サービス会社との連携のような、プライベートな相互接続の活用が今後急速に拡大していくと見込んでいます。昨年 9 月に発表したエクイニクス調査「グローバル・インターコネクション・インデックス（**Global Interconnection Index**）」では、東京においては 2017 年に 82Tbps だったインターコネクションの帯域が 2021 年には 445Tbps と 5 倍以上に増加すると予測しています。これは年平均成長率で 53% となりグローバル平均の成長率を上回っています。
 - エクイニクスは現在、東京に 10 拠点、大阪に 2 拠点の IBX データセンターを運営しており、950 以上の企業がコロケーションサービスやインターコネクションサービスを活用しています。
 - 5 大陸 37 以上のメトロで提供されている SDN ベースの ECX Fabric を活用することで、東京や大阪を始めとするアジア太平洋地域に拠点があるお客様は、欧州、北米、そしてラテンアメリカで ECX Fabric をご利用中のお客様と、オンデマンドで迅速かつフレキシブルに接続することが可能となります。

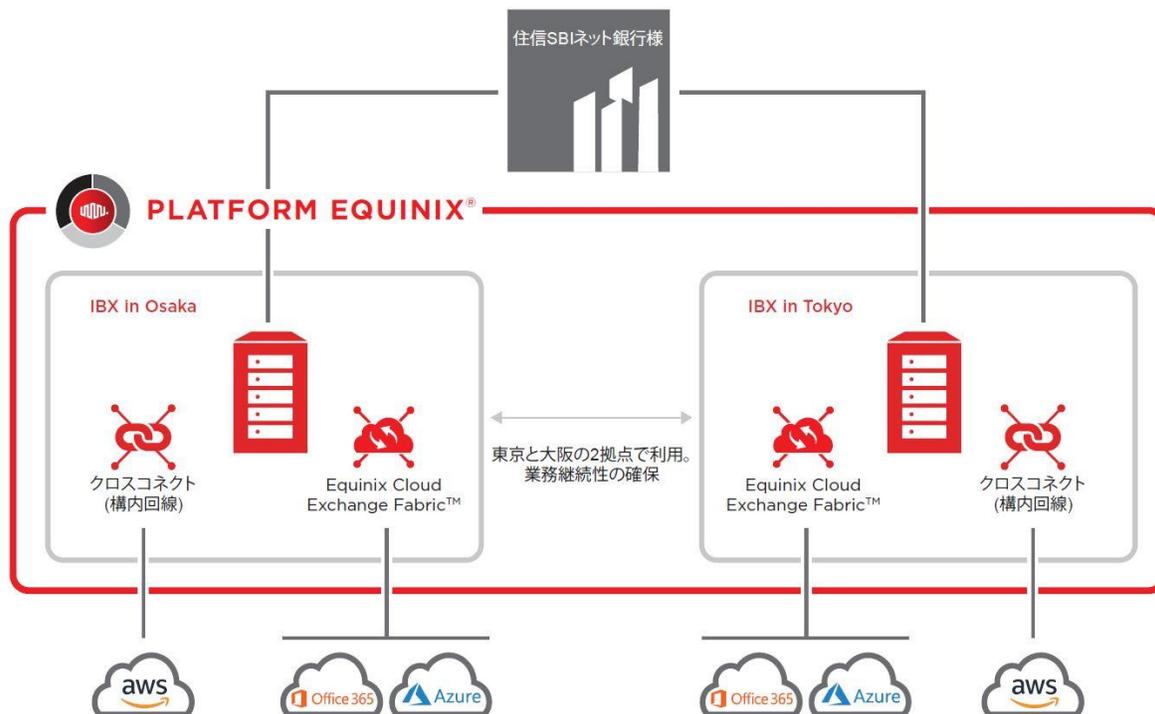
コメント

- 住信 SBI ネット銀行 取締役兼執行役員 CTO 木村 紀義 氏

「当行は、社内システムのクラウドへの移行を通じ、コスト削減、業務のシンプル化と効率化、事業継続性の拡大、そして何よりお客様へのサービス強化を目指しています。この度エクイニクス・ジャパンのサービスを活用することで様々な課題を乗り越えて、当行の長期的事業目標の実現に向けて歩みを進めることができました。今後もエクイニクスの IBX データセンター、インターコネクションならびにグローバルなエコシステムを活用することで、お客様へのサービス拡充に努めていきたいと存じております」

- エクイニクス・ジャパン株式会社 代表取締役 古田 敬

「住信 SBI ネット銀行様が、エクイニクスの IBX データセンターとインターコネクションを活用し、将来に向けたデジタルビジネスのインフラをスピーディーに構築していただいたことを大変嬉しく思います。エクイニクスは世界 200 拠点以上の IBX データセンターでお客様とクラウド事業者間のダイレクト接続サービスを提供しています。これにより、金融機関をはじめとする各業種のお客様が高いセキュリティ要件を満たしつつ、高い冗長性を備えたデジタルインフラを構築できる環境をご提供しています。これからも、インターネット専業銀行として 24 時間、365 日、高品質なサービスを提供されている住信 SBI ネット銀行様のデジタルインフラを支え、ビジネス成功を支援してまいります」



関連資料

- [エクイニクス: 東京と大阪のデータセンター](#) [WEB サイト] (日本語)
- [Global Interconnection Index](#) [WEB サイト] (日本語)

- **エクイニクス、グローバルプラットフォームの強化を発表 デジタルエッジにおけるインターコネクションを加速** [プレスリリース] (日本語)

エクイニクスについて

Equinix, Inc. (Nasdaq : EQIX) は、世界で最も相互接続密度の高いデータセンターにおいて、世界中のトップ企業をそのお客様、従業員、パートナーに接続しています。世界 5 大陸、50 以上の市場をつなぐデジタルビジネスのためのグローバルプラットフォームとして、企業の皆様があらゆる場所で、あらゆる人やモノとつながり、デジタル化された未来を実現していくことを支援しています。 [Equinix.co.jp](https://www.equinix.co.jp)

将来の見通しに関する記述について

本ニュースリリースには、リスクおよび不確実性を伴う将来の見通しに関する記述が含まれております。こうした将来の見通しに関する記述において言及されている予測と実際にもたらされる結果との間には、大幅な相違が生じる場合があります。そのような相違を生じさせる要因としては、IBX センターの取得、運営および建設上の問題、Equinix のサービスに関する開発、設置、および提供上の問題、既に見込み買収済み、または今後買収する予定の企業との統合に関連して発生する想定外の費用または問題、新たに開設ないし取得したデータセンターにおけるお客様からの収益の大幅な欠如、適宜計画される資金調達の未完遂、既存の競合先ないし新規競合先との競争、キャッシュフロー余力の十分性あるいは未払負債ないし新規の負債を返済するための資金調達能力、主要お客様とのビジネスにおける損失あるいは減退、Equinix, Inc. が米国証券取引委員会に適宜提出する資料に記載されているその他のリスクが含まれますが、これらに限定されません。詳細については、Equinix, Inc. が米国証券取引委員会に提出した直近の四半期報告書および年次報告書をご参照ください（ご要望に応じ、Equinix, Inc. より入手可能です）。エクイニクスは、このニュースリリースに含まれる将来の見通しに関する情報を更新するいかなる義務も負いません。

Equinix および IBX は、Equinix, Inc. の登録商標です。
International Business Exchange は、Equinix, Inc. の商標です。

本リリースに関するお問合せ

エクイニクス・ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーション
清水 桃香
Email: Marketing-Jp@ap.equinix.com